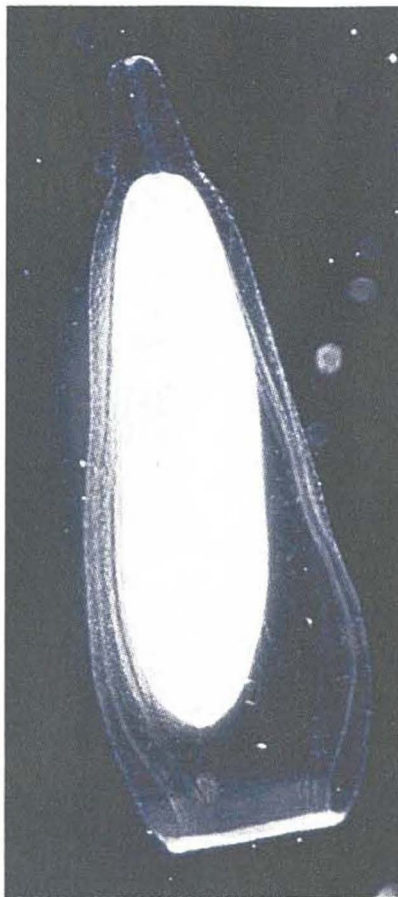


ヨウラククラゲ

久保田 信

46



ヨウラククラゲの母体から発射された雄の生殖クラゲ

ヨウラククラゲは冬季に打ち上がるガラス細工のような大型のヒドロクラゲである。非常にもろく、すぐパーツにばらばらになる。たくさんのパーツが中心の糸のようなものの周りにつくられているので、珠玉や貴金属に糸を通して作製した装身具の瓔珞(ようろう)のように見える。

ヨウラククラゲは管クラゲ類に所属するので、有性生殖をして次世代をつくるため、クラゲから生殖用クラゲを発射する。画像の個体は生殖のために発射された雄クラゲである。なんともシンプルな姿をしている。大きさはミリ単

位のしかないで、母体と比べようもないほど小さく、顕微鏡で拡大している。特徴は、真ん中の白い大きな円筒状の部分だ。この個体には無数の精子が詰まっている。雌だとたくさんの卵が見える。触手もないので獲物も捕らず、母体から遊離後はただちにたった一度有性生殖をして朽ち果てる運命にある。

このクラゲは母体から遊離後間もない。このことは、傘の天辺に細い管があるのですぐ分かる。自力で栄養が取れないクラゲなので、遊離寸前まで母体からこの管を通して栄養をもらっている。

この短命な生殖クラゲは、一つの母体から数多く発射される。しかし、海は広い。この広大な外洋で異性のクラゲと出合っって子どもをつくり命をつなぐ。こんな運任せのような方法でよくも全滅しないものだといつも感心する。

(京都大学准教授)